

## 2 だれもが健やかで住んでみたいくなるまちづくり・人づくり

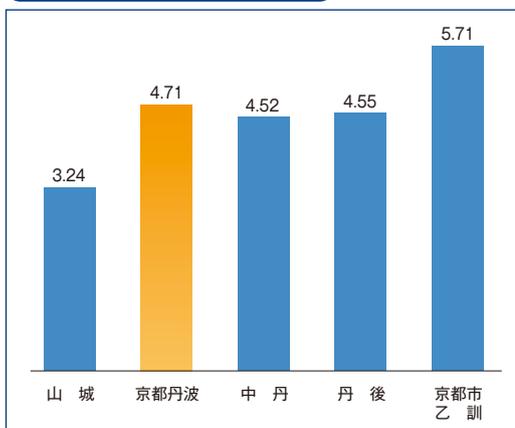
### 【現状と課題】

#### ■ 地域活動が盛んな地域

京都丹波地域には、66のNPO法人(京都府認証分、平成26年5月現在)がありますが、人口1万人当たりの団体数は4.71団体で、NPO法人が集中している京都市を除くと、府内の他の地域よりも多くなっています。また、地域力再生プロジェクト支援事業交付金の支援団体数と支援額も多く、住民活動や地域活動が活発に展開されていることがうかがえます。

その一方で、NPO法人をはじめとする地域活動団体に対する地域住民の認知度や理解度がまだ低いこと、活動団体相互の連携が不十分であること等から、地域活動団体等との協働の取組やパートナーシップセンターのコーディネート機能等の充実を図っていくことが課題となっています。

人口1万人あたりのNPO法人数



#### ■ 幼稚園(保育所)から大学等までの連携が進んだ地域

総合大学をはじめ、医療系の学校、伝統工芸を学ぶことができる学校等、特色ある多くの高等教育機関等があり、約5,600人の学生が日々勉学や技術習得に励んでいます。また、特色のある高等学校も多く、地域連携も進み中で小学校、中学校とのパートナーズスクール事業等が充実し、地域活性化に大きな役割を果たしています。

さらに、「南丹地区幼小中高等連絡協議会」による京都丹波キッズふれあい駅伝、京都丹波美術工芸教育展や南丹パートナーズスクール事業等、学校種別間連携による取組が進んでいます。

こうした動きを継続・発展させ、京都丹波地域ならではの地域づくりにいかしていくことが重要であるとともに、京都丹波地域に通学する学生にとっても、この地域がさらに魅力あるものとなるためには、学校間相互の連携を図っていくことが課題となっています。

大学・大学校との連携事例、特色ある高校等

区分	地域	大学名	内容
連携事例	京都丹波	京都府立大学	京都丹波の魅力発信に係る調査研究(写ガール事業)
		京都府立大学	セーフコミュニティに関する調査研究
	亀岡市	京都学園大学	地域資源の発掘、まちづくりの展開手法の調査研究
		立命館大学	セーフコミュニティに関する調査研究
		龍谷大学	事務事業評価に係る調査研究
		京都府立大学	地域連携協定、大野演習林、日吉演習林
	南丹市	京都大学	フィールド科学教育研究センター芦生研究林
		佛教大学	地域連携協定(まちづくり、教育、福祉、産業等)
		二本松学院	地域連携協定(文化振興、地域振興等)
		京都大学	地域資源の発掘、まちづくりの展開手法の調査研究
京丹波町	府立林業大学校	地域貢献活動等	
	府立亀岡高校	Ⅲ類芸術系	
特色ある高校	亀岡市	府立南丹高校	総合学科テクニカル工学系列
		府立園部高校	京都国際科
	南丹市	府立農芸高校	農産バイオ科、環境緑地化科
		府立北桑田高校美山分校	農業科、家政科
		京都聖カタリナ高校	看護科、福祉科
	京丹波町	府立須知高校	食品科学科
	(京都市)	府立北桑田高校	森林リサーチ科

## ■ 豊かな自然や歴史・文化に恵まれた地域

京都丹波地域は、緑豊かな自然環境に恵まれた地域で、京都市等の大消費地の台所を支える農林畜産業もこうした環境を背景に盛んとなっています。また、桂川・由良川の二つの水系に沿って多くの文化がはぐくまれ、亀岡市の「亀岡祭」や「佐伯灯笼」、南丹市の「美山かやぶきの里」や京丹波町の「和知人形浄瑠璃」等、歴史的・文化的な資産を数え上げれば枚挙にいとまがありません。

こうした地域に残る豊かな自然や歴史・文化をさらに守り育てることが、「京都丹波らしさ」、「京都丹波ならではの」を生み出すことになることから、地域の文化力を育てる取組により、次世代にこの地域の自然・歴史・文化を継承していくことが大きな課題となっています。

### 管内の主な伝統行事

市町村名	行催事名
亀岡市	禊田野佐伯灯笼、亀岡祭、出雲大神宮鎮花祭、保津の火まつり
南丹市	(美山町) 田歌の神楽、松上げ、川上神社からす田楽
	(園部町) 摩気神社神幸祭、お田植えまつり
	(八木町) 六斎念仏踊り、やぶさめ神事
	(日吉町) 田原の御田・カッコスリ、牧山の松明行事、胡麻日吉神社の馬馳け
京丹波町	(丹波町) 八坂神社御田祭、丹波八坂太鼓
	(瑞穂町) 瑞穂鼓太鼓、質美八幡宮秋祭り
	(和知町) 和知太鼓、和知人形浄瑠璃、小畑万歳、和知文七踊り

## ■ 誇りを持って住み続けられる条件整備と地域の未利用資源の活用

農山村では過疎化・高齢化が進んでおり、とりわけ地域を取りまとめ牽引するリーダーが不在の集落では、これまで地域生活を支えてきた人のつながりや絆、助け合い等が失われつつあります。こうした中で、集落の枠を越えて複数集落が連携し、伝統行祭事の復活や協働活動を通じて地域の再生と持続的発展を促進するため、リーダーや地域組織の育成とともに、外部からの人材の確保や集落への移住・定住対策が課題となっています。

また、中山間地域が多く、田畑と山地が複雑に入り組んだ地形が連なっているため、耕作放棄地や空き家が増加しており、さらに地域の象徴である小中学校の再編が予定されていることから、交流活動の拠点として、有効活用が求められています。

これまで、地域力再生プロジェクト支援事業等を通じて、里地・里山の取組の支援、また「里の仕事人」や「里の仕掛人」を配して、地域振興に取り組んできましたが、地域再生と持続的発展の支援を進めることが課題です。

また、野生鳥獣による年間の農業被害は、府内全体の約20%に当たる約1億円であり、減少傾向にあるものの、依然として生産意欲の低下等、農山村に深刻な影響を与えていますので、より一層の防除や捕獲の強化を図り、被害の軽減に取り組むことが課題です。



里の仕事人

## ■ 少子高齢化・人口減少の進展

高齢化率は27.5%（平成26年3月末現在）で、京都府平均の25.7%を少し上回る程度ですが、亀岡市の24.2%に比べ、南丹市と京丹波町ではそれぞれ31.9%、36.9%と高齢化率が高く、深刻な状況です。高齢化の進展に伴い、要介護や認知症の高齢者が増加するとともに、一人暮らしや高齢者のみの世帯も増加しており、介護や在宅生活に関する不安、さらには集落の維持といった問題も顕在化しています。

また、管内の20歳～39歳の女性人口はこの10年間で約15%減少し、若年者人口の減少も問題となっています。次代を担う若い世代をこの地域に誘導・定着させ、この地域で安心して結婚・子育てができる社会環境の整備を図るため、地域の特性を踏まえた少子化対策に取り組むことは重要な課題です。

加えて、少子化や核家族化の進展に伴い育児の不安感・負担感が増大し、育児放棄等の児童虐待も増えつつあり、子育て家庭が孤立しないよう、虐待を未然に防止する取組や地域住民や地元企業を巻き込んだ社会全体による子育て応援等、子育てにやさしい地域づくりを進めていくことが課題です。

## ■ 自主的な健康づくりと医療・介護・福祉を一体化した支援体制の整備

生活習慣病等の慢性疾患を持ちながらも、住み慣れた地域で自分らしい生活を送りたいというニーズが強いことから、「きょうと健康長寿推進京都丹波地域府民会議」において、住民参加による介護予防や健康づくりの府民運動を進めてきました。

健康長寿のまちづくりには、「自分の健康は自分で守る」という「自助」の気運を醸成するとともに、高齢者の在宅生活を総合的に支援するため、医療・介護・福祉を一体化したサービスを包括的に提供する体制づくりを進めていますが、地域連携の強化や社会資源の充実、人材づくりが課題となっています。

## ■ 障害のある人もない人も共にだれもが住み慣れた地域で、自立した生活ができる環境づくり

障害のある人や高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するためには、公的サービスの充実とともに、ボランティアやNPO法人等の地域住民を主体としたグループ活動をさらに促進して、共に支え合う「共助」の地域づくりを推進することが重要です。

特に、障害のある人に対しては、これまで、地域内の事業所や団体・行政が協力してライフステージ全般にわたるきめ細かな相談・支援の体制づくりとともに、地域で支える就労の場づくりやスポーツ等、社会参加の促進が課題です。

## 【具体的な施策の展開(5)～(9)】

### (5) 安心・安全で住みやすいまちづくり

住み慣れた地域で安心・安全、快適に暮らし続けるためには、自然災害や火災、犯罪、感染症、原子力災害等を含む様々な“危機”に適切に対応できるよう、警察、消防をはじめ、行政による安心・安全の取組に加えて、日頃から住民一人ひとりが安心・安全の意識を高めるとともに、地域ぐるみで危機意識を共有し危機に備える取組を進めていくことが重要です。

このため、自助・共助・公助の3つの視点からの取組を一体的に進め、高病原性鳥インフルエンザ等未曾有の危機を克服した経験をいかし、“危機”に強い地域づくりをめざします。

## ■ 自らの安心・安全を守る取組の推進(自助)

- ◇地域の住民が日頃から安心・安全に関心を持ち、“危機”に直面したときに適切な行動ができるように、実践想定訓練も含めた自然災害や交通安全、防火、防犯等に係る意識啓発を推進します。
- ◇だれもが素早く手軽に安心・安全に関する情報を入手することができるように、ホームページ等を通じて安心・安全に関する情報を提供します。
- ◇大規模災害時に、地域の事業活動等を維持・確保することができるよう、京都BCP行動指針に基づく取組を推進します。

## ■ 地域ぐるみの自主的活動の促進(共助)

- ◇地域の課題を共有するとともに、災害が発生した時にお互いが協力し合えるように、地域における話し合いの場づくりを推進します。
- ◇地域住民による自主的活動等、地域における安心・安全の取組を支援します。
- ◇「セーフコミュニティ」の理念をはじめとした地域の安心・安全システムの地域普及を推進します。
- ◇核家族化が進展する中、地域活動団体等との協働により、安心して子育てができるように支援します。

## ■ 災害や犯罪等のない安心・安全なまちづくりの推進(公助)

- ◇平成25年9月の台風18号及び平成26年8月の台風11号等による被災状況を踏まえ、府民の安心・安全を確保するため、道路や河川、山林、上下水道、ため池等、災害に強い基盤整備を国及び市町とも連携しながら進めるとともに府の広域防災活動拠点(丹波自然運動公園)等の充実を図ります。
- ◇道路、河川等のインフラについて、アセットマネジメントによる中長期的な視点でそれぞれの施設の現状と環境に応じた総合管理計画を策定し、「点検」「診断」「措置」「記録」という維持管理の業務サイクルを通じて内容を充実させ、効率的、効果的な管理を行います。
- ◇府民公募型整備事業を活用し、地域に暮らす住民の視点から、身近な安心・安全を確保する基盤整備を促進します。
- ◇被害の拡大や風評被害等を防止するため、安心・安全に関する情報提供体制を充実します。
- ◇警察、消防及び市町等の関係機関との連携を強化し、要支援者をはじめとする住民の安心・安全の確保を図ります。
- ◇新型インフルエンザ等新たな感染症による危機対策として、市町や医療機関等と連携を図りながら、感染防止に向けた体制づくりを推進します。
- ◇感染症の集団発生や二次感染の防止のために、平常時から各施設での組織的な予防対策と、関係機関との感染症情報の共有、住民への普及啓発を促進します。
- ◇高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫等、家畜伝染病を発生させないよう、常日頃から万全の衛生対策を講じるとともに、発生に備え独自のスターチーム員による初動防疫に取り組みます。
- ◇危機管理体制等の充実や原子力防災対策を推進するため、訓練等の実施や広域避難計画の策定等、関係機関・関西広域連合等との連携を強化します。
- ◇食中毒予防や薬物乱用防止に対する正しい知識の普及を推進します。
- ◇自殺者ゼロをめざすため、各市町や関係団体等によるネットワークを構築するとともに地域での見守り体制を強化します。



新型インフルエンザ対応訓練

自殺者数等		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
自殺者数		29	39	38	27	31
人口10万人当たりの自殺者数		20.11	27.21	26.65	19.05	22.05
人口		144,227	143,345	142,580	141,728	140,581

## (6) 人権の尊重と自立と協働による思いやりと信頼の「絆」づくり

地域が抱える様々な課題を解決していくためには、何よりもまず、一人ひとりの人権が尊重され、多様な主体が参画できる社会を形成することが必要であり、地域に暮らす人々、NPO法人をはじめとする地域活動団体、大学生等の地域の若者達、そして行政や企業が力を合わせて、「オール京都丹波」による課題解決に向けた取組を進めることが必要です。

このため、一人ひとりがお互いに相手の立場を理解し、思いやる心と人権尊重の精神を持って、信頼のきずなづくりに努めることが何よりも重要であり、こうした考え方のもとに、個々の地域活動団体の活動はもとより、団体相互間の連携や地域と大学等との連携を促進し、様々な視点からの地域活動を支援することにより、地域の活性化を図ります。

## ■ 同和問題、女性等に対する様々な人権問題の解決に向けた施策を推進

◇人権を取り巻く状況を改善するため、同和問題や女性、子ども、高齢者、障害のある人、外国人、患者等に対する人権問題等、様々な人権問題について、解決に向けた人権教育・啓発等の施策を推進するとともに、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント等性別をはじめとする人権侵害や、インターネット上での人権侵害、街頭で公然と行われる差別的な言動等の新たな課題に対応した取組を進めます。

## ■ 地域活動団体等との協働による地域づくりの推進

- ◇地域力再生プロジェクト支援事業交付金等を活用した地域力再生活動の支援とともに、地域活動団体等とプラットフォームを形成し、地域活動団体等との協働による地域づくりを推進します。
- ◇地域活動の活性化を図るため、地域活動団体の相互交流を促進するとともに、地域活動団体が一堂に会し、地域にその活動を紹介するとともに、住民と交流する機会を創出します。
- ◇持続的な地域活動を促進するため、「南丹パートナーシップセンター」の機能を充実し、地域活動に役立つ講座や研修会、相談会の開催、団体相互の情報共有、情報交換、交流を促進するための地域活動情報を双方向から発信します。
- ◇地域で活躍する女性の先進事例紹介や学習会、活動のさらなるステップアップにつなげる交流の機会等を提供し、男女共同参画社会の実現に向けた環境を整備します。



地域団体との協働により実施した「京都丹波・振興局マルシェ」

目 標 ● 地域力再生交付金等を活用したプラットフォームの数 34件(平成25年度 14件)

## (7) 地域に伝わる自然や歴史・文化をいかした地域づくり

京都市から老ノ坂峠を越えると、広々とした田園風景や桂川が眼下に広がりますが、「京都丹波」の各地域では、豊かな自然環境が守られ、個性あふれる歴史・文化が脈々と受け継がれており、地域の住民にとっても大きな誇りとなっています。

こうしたすばらしい自然環境や地域の特性をいかした地域づくりを進めるとともに、地域文化を次世代に伝え、新しい文化の創造につなげていきます。

## ■ 地域文化の継承と人材育成

- ◇景観資産等の広報・啓発に努める等、地域の景観づくりを支援します。
- ◇京都丹波の魅力を満喫するための「京都丹波景観街道(仮称)」の整備を進めます。
- ◇高度な学術的価値を有する原生的な自然が保全され、かやぶき集落等地域文化が息づく由良川上流域を含む新規国定公園指定に向けた取組を進めます。
- ◇豊かな自然と美しい景観が保全され、歴史的・文化的な資産でもある保津川の恵みを生活にいかす取組を進めます。
- ◇次世代に地域文化や歴史・文化資産を継承するため、地域文化の中心となる社寺等の文化資料の保全を図ります。
- ◇「国民文化祭」の成果を継承・発展させ、地域の文化力を育てるため、「文化力で京都を元気にする事業」の推進や京都丹波EXPOの開催等を通じて、伝統芸能の発表機会や地域文化に触れる機会をつくとともに、地域の文化力を育て、地域文化の継承と新しい文化の創造を支援します。
- ◇地域活動団体と協働して、京都丹波地域の文化を担う次世代育成に取り組むとともに、この地域が持つ文化の魅力や強みを広く全国に紹介・発信します。



京都丹波 EXPO



文化披露(丹波八坂太鼓)

## ■ 誇りを持って住み続けられる賑わいのある元気な地域づくり

### — 協働の推進 —

- ◇過疎・高齢化の進む農山村地域において、地域課題の解決と活性化のため「里の仕事人」が支援するとともに、「里の公共員」を配置し、地域住民とともに行う地域づくり活動を支援します。

### — 定住促進 —

- ◇過疎化の進む農村部では特にUターン等移住定住対策が重要であり、ITを活用し、企業説明会等の就業情報や医療、教育等の定住に関する情報を一元的に取り扱う「京都丹波Uターン就業相談センター（仮称）」を市町や学校等と連携し、設置します。
- ◇農山村の空き家の利活用を促し、多様な価値観・ライフスタイルに応じた魅力発信や田舎ぐらしナビゲートを行う等、定住に向けた取組を推進します。
- ◇地元市町や農林系大学、大学校や農業高校等の教育機関、関係団体とも連携し、都市農山村との交流促進、新規就農の受け入れ、里の公共員の設置、都市と近接した立地特性を活用した京都丹波型2種兼業農業（半農半X）等、様々な形で若者の移住・定住促進の取組を進めていきます。
- ◇高齢化や担い手不足により耕作放棄された農地は、保全管理等再生可能な状態であるものは、担い手の確保等による農地の再生に加え、過疎化の進行により空き家となった家屋を含め、一体的に定住促進に活用する仕組を地元自治体とともに構築します。

### — 拠点づくり —

- ◇農山村の賑わいある地域の交流活動の拠点として、小中学校の再編に伴う校舎の新たな活用に向けた検討を支援します。
- ◇地域サロンや「暮らしの情報発信」等により、地域内の交流を広め、特に農村地域の生活文化を支えている女性の活力をいかした取組を支援します。
- ◇地域資源をいかした特産品づくりや地域食材を使用した郷土料理、古くから伝わる技術の伝承で、地域の女性や高齢者が自信や元気を回復し生きがいの持てる農村づくりを進めます。

### — 有害鳥獣対策 —

- ◇京都府と市町でメンバーを構成する「南丹地域野生鳥獣被害対策チーム」による「地域ぐるみの被害防止活動」を中心とした被害防止対策を支援します。
- ◇猟友会等と連携した捕獲の強化や公的な捕獲活動の担い手の確保に加え、恒久的防護柵等の設置による防除力の強化を図り、被害の軽減を図ります。

## ■ 環境保全の取組の促進

- ◇だれもが環境に関心を持ち、環境を守る取組が実践できるように、環境保全に関する情報を提供します。
- ◇環境に関する高い意識を持つ次世代の育成のため、エコロジー学習等、環境保全に関する学習を推進します。
- ◇多様な主体の参画を得て希少な野生動植物を保全し、それらが棲む豊かな自然環境を守り育てます。
- ◇地域住民による河川や道路等の美化活動等を支援します。
- ◇地域の文化に根ざした資源の有効利用や廃棄物を極力出さないライフスタイルについての情報を発信し、循環型社会の形成を促進します。
- ◇環境に関する取組の輪を広げていくため、京都丹波地域で環境問題に取り組む団体相互のネットワークづくりを推進します。
- ◇EV（電気自動車）の導入等、CO<sub>2</sub>削減に向けた取組を推進します。



環境教育の取組

◇環境対策に積極的に取り組む地元企業をはじめ、企業におけるCO<sub>2</sub>削減に向けた取組を支援します。

目 標	● 子どもの社会体験事業数	36件(平成25年度 16件)
	● 子どものための文化体験の数	40件(平成25年度 20件)
	● 里の公共員を配置する等過疎高齢化が進む農山漁村で地域再生活動に取り組む地区数	5地区(平成25年度 ー)
	● 農山漁村へ移住した都市住民等の人数	40人(平成25年度 ー)

## (8) 地域資源をいかした次世代につなぐ人づくり

京都丹波地域の“明日”は、子どもたちや若者が創っていきます。将来に向かってより良い地域を創っていくためには、子どもたちの心身ともに健やかな成長をはぐくむ地域づくりが必要であるとともに、ふるさと「京都丹波」に愛着と誇りを持ち、ふるさとの良さを発信できる人づくりが必要です。

このため、子どもたちに小学校段階から、地域の伝統文化や歴史について伝えるとともに、豊かな心を育てるボランティア活動、自然体験活動及び読書活動等を展開することが必要です。

また、子どもたちや若者が楽しみながら参加できるような地域活動を推進し、こうした取組を通じて、未来の京都丹波地域を考えるきっかけをつくるとともに、子どもたちを取り巻く環境の整備等、学校・家庭・地域が連携・協働して次世代の育成をめざします。

### ■ 元気な高齢者の経験と知恵をいかした京都丹波の人づくり

◇高齢者の持つ知識や経験、ノウハウと、地域力再生活動や地域団体の活動をマッチングし、地域振興につなげる取組を行います。

◇先進的な元気な高齢者の活動モデルをそれぞれの地域で広げるための広報発信や支援を行います。

### ■ 豊かな自然や文化、農山村等地域資源を活用した人づくり

◇学校、公立図書館及び地域ボランティアが連携した読み聞かせ活動等に取り組むとともに、読書キャンペーンや読書に関する作品募集等を通じた読書活動を推進します。

◇青少年の健全育成を進める「社会環境浄化推進員」やチームでひきこもり支援を行う「チームきずな」との連携を図り、子どもたちの健全な成長に資する環境を整備します。

◇「オール京都丹波」による子育てを進めるため、各種団体との連携を密にした「地域子育て支援事業」を推進します。

◇農林畜産業をいかした取組の実施をはじめ、地域の伝統文化や芸術の継承と発展に向けた、児童生徒の体験学習や地域の先人に学ぶ事業を、子どもたちの視点に立ち、各市町等とのジョイントプログラムとして推進します。

◇学校、行政機関及び関係団体が連携し、ふるさとの歴史や文化等地域学習への取組を推進します。

## ■ 大学や企業等の集積をいかした人づくり

- ◇京都丹波に立地する大学、大学校等の高等教育機関や企業、農林水産技術センター等と連携した「農起業経営アカデミー（仮称）」を開設し、顧客ニーズの捉え方やグローバル戦略の実践者を講師にした人材育成に取り組み、地域農業を支える若い農業経営者の育成を図ります。【再掲】
- ◇未来の「京都丹波」を担う子どもたちが楽しみながら、豊かな自然や多彩な地域文化を活用したフィールドワーク型の社会体験や職業体験を推進します。
- ◇「南丹パートナーシップセンター」を拠点に、学生とNPO法人をはじめとする地域活動団体をつなぐ取組等、地域活動への若者の参画を促進します。
- ◇管内の特色ある大学・大学校間の連携を促進し、若者にとって魅力ある地域づくりを進めます。
- ◇美術・工芸、食品科学、森林リサーチ、農業、工業等、地域の特色ある高校との連携による地域の活性化を促進します。
- ◇保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、子育て支援センター等の連携事業に取り組み、世代間交流を推進するとともに、人材育成を図ります。

目 標 ● 幼小中高大連携の取組件数 15件(平成25年度 10件)

## (9)だれもが健康で安心して暮らし支え合う「絆」づくり

健康長寿社会の実現のため、一人ひとりが健康づくりを実践していけるよう健康的な生活が習慣化できる取組を推進します。

地域内の医療機関の役割分担を図るとともに、高齢化の進捗状況や施設の偏在等、都市と農村部で大きく異なる地域の特性を踏まえ、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療・介護・福祉を一体化した「地域包括ケア体制」の取組を進めます。

また、少子化の進行に歯止めをかけるため、市町や関係団体と連携し、地域特性をいかしながら、若者等の定住化支援を進めるとともに、安心して子どもを産み育てることができるよう、地域における雇用や生活基盤の充実を図ります。

加えて、支援施策の中心が「施設から地域へ」と移る中で、障害のある人が地域で働き、自立して生活できるよう、より専門性の高い「相談・支援」と「就労支援」の体制整備を図ります。

## ■ 地域ぐるみで健康長寿をめざす京都丹波づくり

### — 健康づくり —

- ◇若い世代から健康な生活習慣や運動習慣を身に付け、生涯にわたる健康づくりを進めるため、全世代に対する啓発を図るとともに学校・企業等と協働し、若者や働き盛り層に対して生活習慣病やがん予防の取組を推進します。
- ◇「きょうと健康長寿推進京都丹波地域府民会議」において、「運動の習慣化」「食生活の改善」「受動喫煙防止」「歯の健康」の取組を住民と一緒に推進します。
- ◇住民主体の健康づくりを促進するため、「なんたん元気づくり体操普及リーダー」「歩こう会」「食生活改善推進員」等、地域における自主活動グループを支援し、住民同士のつながりを深め活動を普及していきます。



なんたん元気づくり体操

- ◇管内に立地する企業や大学の食堂と連携し、京都丹波の地場野菜を活用した昼食の提供や適切な量と質の食事を選択して摂取できる食環境の体制整備と健康づくりを推進します。【再掲】
- ◇京都丹波の地元産野菜を活用した地域住民の食生活改善や、体験農園を活用した健康づくりを通じて、地域住民が食と農、健康について考えていくプラットフォームをつくり、「京都丹波スタイルの食育のまちづくり」を推進します。【再掲】

— 医療・介護・福祉一体型の地域包括ケア —

- ◇がんや難病を持つ方が、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすことができるよう、医療・看護・介護が連携した「南丹圏域在宅緩和ケアネットワーク」の取組を推進します。
- ◇難病患者が安心して療養生活が送れるよう、総合的な相談・支援を行うとともに、従事者のスキルアップや多職種による連携チームの体制整備を図ります。
- ◇高齢者がいつまでも健康で、生きがいを持って暮らせるよう、市町等関係機関と連携した介護予防や認知症予防対策を推進します。
- ◇認知症の方が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、市町等と連携して啓発を行うとともに、認知症疾患医療センター（公立南丹病院）による鑑別診断や専門相談、人材育成の取組のほか、地域リハビリ支援センター（公立南丹病院）や市町地域包括支援センター等関係機関とのネットワークの構築を進めることにより、高齢化や過疎化が著しく進行している京都丹波地域において住民ニーズに寄り添い、気付きのできる地域づくりを推進します。
- ◇地域のボランティアや住民が協働して行う「ふれあいサロン」づくりや見守り活動、子どもと高齢者の世代間交流等の取組を支援します。
- ◇脳卒中等、主要な疾病に応じて急性期から回復期、在宅に至るまで切れ目なく医療が提供できるよう、地域の中核病院である公立南丹病院を軸にした圏域医療機関の機能分担を図り、地域の実情に即した広域的な地域医療連携体制の整備を進めます。
- ◇高齢化の進捗状況や医療機関等地域資源の偏在等、都市と農村部で大きく異なる特性を踏まえ、地域を支える既存のネットワークの連携強化により、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療・介護・福祉一体型の「地域包括ケア体制」の取組を進めます。
- ◇医師・看護師はじめ必要な医療従事者及び福祉人材の確保対策とともに、研修支援の充実を図る等人材の定着支援を推進します。



■ 若い世代が希望を叶え、安心して結婚し、子育てできる地域づくり

- ◇少子化の進行に歯止めをかけるため、市町や関係団体と連携し、都市部では、京都市内や大阪等都市圏への通勤・通学が可能な地域の利点をいかし、農村部では京都丹波の豊かな自然環境による地域特性をいかしながら、若者等の定住化支援を進めるとともに、安心して子どもを産み育てることができるよう、地域における雇用や生活基盤の充実を図ります。
- ◇出会いや交流を活性化するため、市町や民間団体等とも連携しながら結婚に向けた支援に取り組みます。
- ◇市町と共にすべての親子に育児支援を実施し、子育て家庭の孤立化と虐待を未然に防止します。
- ◇子育て支援団体や子育てサークルの交流を図るため、広域的な交流事業を実施するとともに、子育て家庭に寄り添う子育てパートナーの活動を支援する等、地域における子育て支援力を強化します。
- ◇母親だけではなく父親も育児に主体的に参加するよう、関係機関と連携し、環境整備の促進を図ります。

- ◇学校、家庭及び地域総がかりで子どもを守り育てる気運の醸成とネットワークの強化を図るため、各種団体との連携を進めながら、「子育てフォーラム」等地域子育て事業を展開します。
- ◇発達障害児への早期支援を行うため、専門医による発達相談、育児の悩みを受け止める子育てカウンセリング及び保護者へのペアレントトレーニングの機会を充実し、きめ細やかな親支援を行うとともに、対象児へのソーシャルスキルトレーニングの実施を促進する等、市町や花ノ木児童発達支援センター等の関係機関と連携して支援体制を整備します。また、就学への連携をスムーズにしていくために、支援ファイル・移行支援シートの普及と効果的な活用を促進します。
- ◇住民や従事者の研修会等を通じて、府民・保護者・関係者が発達障害について正しく理解し、親も子も育ち合う地域づくりを促進します。
- ◇在宅療養児等の特別な配慮が必要な乳幼児と保護者に対して、保健・医療・福祉が連携し、支援者のケア実践力を高めるための体験型研修や事例検討会を実施する等支援体制を整備します。

### 「子育て王国 京都丹波」をめざして

「京都丹波地域少子化対策戦略会議」の提言を踏まえ、豊かな自然環境や都市部に近い好立地条件に恵まれた地域特性を生かし、より一層賑わいと活力のある京都丹波地域を創るために、「子育て王国 京都丹波」をめざします。

#### ■京都丹波への愛郷心を高め、定住化やUターン等の促進

意外に近い京都丹波定住促進、「京都丹波地域の産業・仕事」紹介ほか

#### ■若者出会いの場創出と定住促進

「京都丹波でときめき」出会いの場創出、学生を囲む会ほか

#### ■豊かな自然文化や充実した結婚・妊娠・出産・子育て支援施策

京都丹波で結婚生活キャンペーン、京都丹波「子育て村」推進、京都丹波みんなで子育て応援事業ほか



### ■障害のある人が住み慣れた地域で、希望を持って自立して暮らすことのできる環境づくり

#### ◇障害のある人が地域で自立するための環境づくり

- ・「京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例」や「京都府福祉のまちづくり条例」等に基づき、就学前から学齢期・卒業後の就労等、障害のある人のライフステージ全般にわたる支援体制を構築するため、障害児者総合支援ネットワーク「ほっとネット」等を核として、総合相談支援センター「結丹」等関係機関・団体と連携し、相談支援体制の充実を図ります。
- ・障害児者の芸術作品等の創作・発表等の機会を創出する場である「みずのき美術館」等において障害者の社会参加と府民との交流を促進する拠点として機能強化を図ります。

#### ◇障害のある人の就労支援やスポーツ活動の充実・強化を図ります。

- ・障害のある人の収入増加を図るためオリジナルブランド「ぬくもり京都丹波」の商品開発を支援し販売促進を強化します。
- ・障害のある人が製作した「ほっとはあと製品」を販売する「ハートショップ」の設置やスポーツの支援等、障害のある人と地域住民が交流できる場づくりを進めます。



ぬくもり京都丹波

## 目 標

●「就業・生活支援センター」と連携して一般就労に結び付いた障害のある人の数	300人(平成25年度)	167人)
● 障害者福祉事業所における障害者の月平均賃金	21,000円(平成25年度)	17,659円)
● 健康(食)教育及び啓発を実施する事業所・大学	12件(平成25年度)	— )